

過去30年間の学校基本調査データを用いて大学進学に関わる人口移動の推移を分析したものである。第3報告は、同年10月に公表となった本研究所の1999年世帯動態調査の結果に関する報告である。「親族との居住関係」(西岡)、「世帯の継続と発生」(清水)、「世帯形成の現状と動向」(鈴木)、「世帯の解体と縮小」(小山)という各テーマに沿って、公表結果をもとに近年の世帯変動の概観が述べられた。

以上のように、3題の報告を通して、多様なデータを用いた地域人口や世帯の動向・変動に関する興味深い知見が示された。開催地が遠方ということもあって参加者は限られていたが、有意義な討論となった。(小山泰代記)

比較家族史学会20周年記念 韓国ソウル大会

比較家族史学会(会長:利谷信義・東京大学名誉教授)の第40回研究大会——20周年記念特別研究大会(日韓家族研究シンポジウム)(運営委員長:崔 吉城広島大学教授,運営委員:八木 透・仏教大学教授ほか)が韓国家族学会の協賛を得て、2001年11月3日(土)にソウル特別市のソウル教育文化会館で開催された。午前中には利谷会長の挨拶と崔教授の趣旨説明に続き、韓国家族学会会長の李 東瑗・梨花女子大学教授による「韓国家族の状況」と題された講演を皮切りに、李 光奎・ソウル大学名誉教授による「東アジアの家族研究」、朴 乘濠ソウル大学名誉教授による「法制史から見た家族研究」、竹田 旦・茨城大学名誉教授による「日本における韓国家族研究」の合計4つの基調講演が行われた。午後には「ジェンダーと儒教」と題されたシンポジウムが行われ、嶋 陸奥彦・東北大学教授による趣旨説明に続き、津波高志・琉球大学教授による「済州島海村における家族」、趙 惠貞・延世大学教授による「儒教と家父長制」、鄭 映恵・大妻女子大学教授による「在日と家族」と題された合計3つの報告と上野千鶴子・東京大学教授、朴 富珍・明知大学教授による討論がなされた。夕方の懇親会では利谷教授に続いて旧友の張 慶燮・ソウル大学準教授が韓国家族学会国際担当理事として挨拶したが、懇親会の前に2人で廊下を歩いていたところ、別の会議にいられた韓国保健社会研究院長と出くわすという偶然もあった。翌11月4日(日)にはエクスカッションとして韓国のシャーマン儀礼見学が行われた。

なお、比較家族史学会の第41回研究大会は5月25日(土)~26日(日)に柳田国男ゆかりの岩手県遠野市(あえりあ遠野/遠野市民センター)で開催されることになっている。(小島 宏記)

2001年日本世論調査協会研究大会

日本世論調査協会(会長:中西尚道・京都大学名誉教授)の2001年研究大会(研究大会実行委員長:谷口哲一郎・輿論科学協会理事)が2001年11月16日(金)に東京都千代田区の中央大学駿河台記念館で開催された。午前中には会長挨拶に続き、以下の4報告が行われた。

(午前)

「Telephone Surveys: Some Findings and Lessons from the US Experience」

Nicolaos E. Synodinos (University of Hawaii)

「質問形式の差が調査の分析に与える影響」

小島秀夫(茨城大学)

「選択肢提示順による性別選好規定要因の相違」

小島 宏(国立社会保障・人口問題研究所)

「郵送調査における標本枠としての電話帳活用の事例研究」

林 英夫(関西大学)